

09

6月2019

第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 市民公開講座

「JSMO2019 がんゲノム診療 これまで・いま・これから ～Cross the Lines～」

全4ページ
文責：山内千晶

2019年6月9日、国立がん研究センターで開催された市民公開講座に参加してきました。ちょうど数週間前に2つの **遺伝子パネル検査**^{※1}が保険収載された、というニュースが飛び込んできて、まさにタイムリーな内容の公開講座に会場は満席でした。

The poster features the JSMO logo at the top left. The main title is '第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 市民公開講座 JSMO2019 がんゲノム診療 これまで・いま・これから 「Cross the Lines」'. A red hexagonal badge on the left says '参加費 無料'. A white box in the center contains the date '2019年6月9日(日)', time '開会 14:00 (開場 13:30～)', and venue '会場 国立がん研究センター 研究棟1階 大会議室'. Below this, it lists the address '〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1' and a URL 'https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/d002/access/index.html' with a QR code. A red hexagonal badge at the bottom left says '定員 200名'. At the bottom, there is a section titled 'ご参加頂くにあたっての注意事項とお願ひ' with three bullet points: 1. '本日の講演の様子は全て撮影をいたします。あらかじめご了承ください。' 2. '講師や司会のコメントなどに、事例(サンプル)として特定の薬剤・治療・治療機器の固有名詞(一般名・ブランド名など)を言及する場合がありますが、本市民公開講座はこれら特定の薬剤・治療・治療機器を推奨するものではありません。' 3. '会場内での写真撮影や録音はご遠慮ください。なお、スタッフが SNS 投稿用や記録用として写真を撮影いたしますが、来場者の個人が特定されるような写真は公開されませんので、ご了承ください。'

タイトルにもあるように、まずはこれまでのがん治療である「殺細胞性抗がん剤（いわゆる今「抗がん剤」といわれている薬剤。）」、そして現在のがん治療である分子標的薬や一時期話題になった肺がん領域のオプジーボなどの免疫チェック阻害剤、そして今回一番の関心事、遺伝子パネル検査や次世代の免疫療法と3つのテーマに沿った興味深い講演でした。

第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 市民公開講座		PROGRAM
Opening	14:00-14:05 5min	秋沢 淳子 TBSアナウンサー
開会挨拶	14:05-14:10 5min	藤原 康弘 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長、国立がん研究センター 中央病院
講演①	14:10-14:40 30min	「これまでのがん医療（20世紀：殺細胞性抗がん剤）」 中西 洋一 第16回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長、北九州市立病院機構 理事長
	14:40-15:00 20min	Q&A and Talk Session 進行：岸田 徹 NPO法人 がんノート 代表理事 ディスカッサント：中西 洋一 北九州市立病院機構 理事長 岡本 渉 広島大学病院 がん治療センター 准教授
講演②	15:00-15:30 30min	「今現在のがん医療（21世紀から現在：分子標的薬剤・免疫チェックポイント阻害剤）」 西尾 和人 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長、近畿大学医学部ゲノム生物学 教授
	15:30-15:50 20min	Q&A and Talk Session 進行：轟 浩美 認定NPO法人 希望の会 理事長 ディスカッサント：西尾 和人 近畿大学医学部ゲノム生物学 教授 山本 昇 国立がん研究センター中央病院 先端医療科 科長
講演③	15:50-16:20 30min	「現在から未来へ（遺伝子パネルや次世代の免疫療法、今後の薬物療法への期待と懸念事項）」 藤原 康弘 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長、国立がん研究センター 中央病院
	16:20-16:40 20min	Q&A and Talk Session 進行：長谷川 一男 NPO法人 肺がん患者の会ワンステップ 理事長 ディスカッサント：藤原 康弘 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長、国立がん研究センター 中央病院 武藤 学 京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学 講座 教授
Cross the Lines	16:40-16:55 15min	Cross the Lines に向けた私たちの Novel, Challenge and Change 座長：南 博信 公益社団法人 日本臨床腫瘍学会 理事長、神戸大学大学院医学系研究科 腫瘍・血液内科学分野 教授 登壇者による Take Home Message
閉会挨拶 Wrap Up	16:55-	藤原 康弘 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長、国立がん研究センター 中央病院

中西洋一先生（北九州市立病院機構理事長）は「新しい薬や治療法が出てきたからと言って、従来の抗がん剤治療が古い治療というわけではありません。歴史が長いと言うことは、それだけ効果や有害事象のデータも蓄積されているということです。より安全に、有害事象も極力減らすように、若しくはそれらを軽減する支持療法（吐き気←制吐剤など）の開発もどんどん開発されています。」とお話されました。

加えて藤原康弘先生(国立がん研究センター中央病院)からも「新しい治療やお薬は、治療が終わってしまった方や元々治療が確立されていない方にとって、希望の光となります。しかしそこにはまだたくさんの課題があります。もちろん安全性や効果については十分研究された上での使用ですが、思いもよらない副作用が出てくる可能性もあります。また本来のやり方とは違う怪しい治療で使われることも現実には起こっています。しっかりと見極めてから受けることが大事です。」と冷静な判断が必要なことをお話されました。

今回は各講演の後、Q & Aトークセッションが設けられており、がん患者さんやそのご家族(ご遺族)が進行役をされました。進行役からは私たち患者や家族の素朴な疑問や、ご自身が体験された中で感じた不安や悩みをストレートに質問され、時に頭を抱えて悩みながらも真摯に答えてくださる先生方の姿に、笑いが起こる場面も。その様子に医療者と患者、家族が「チーム」となってがんという病気に向き合っている、という実感が湧きました。

「遺伝子」や「ゲノム」と聞くと、もっと難しい内容かと覚悟しておりましたが、市民公開講座であり、かなりわかりやすく説明されていました。詳しい内容は著作権等の関係で、ここでは出せませんが、後日、学会よりYouTubeにて配信される予定なので、ぜひご覧ください。^{※2}

どうしても新しい治療や薬と聞くと、夢の治療、夢の新薬と思いがちですが、新しい薬や治療は副作用などのデータもまだまだで、また今後、遺伝子パネル検査が広がり、個々のがんに合わせて臓器横断的な薬(プレシジョンメディシン)による治療が普及し始めたとしても、その対象に自分が入るとは限りません。実際に遺伝子パネル検査で実際に治療に結びつく割合は約5%。また遺伝子検査の保険適用は原則一人一回だけ。これも適用に関する要件がありますので、誰でもと言うわけにはいきません。また実施される施設も限られています。

とはいえ、「がんゲノム医療」は今後の医療の要になっていくことは間違いありません。医療の進歩と発展は日進月歩ですが、その相乗効果と功罪をしっかりと確かめて、自分に合った、より良い治療を選択できるようになりましょう。

※1 遺伝子パネル検査とは...

がんに関わるとされる遺伝子を、一度の検査で網羅的に解析する検査。がんの遺伝子異常が見つければ、その異常に応じた適切な治療を見つけることができる可能性がある。ただし異常がない場合、もしくは異常が見つかって治療に使える薬剤がない場合もある。

現在、保険収載されているパネル検査は、国立がん研究センターとシスメックス社が共同開発した「NCC オンコパネル」(126の遺伝子を一度に調べる)と米国FDAの「Foundation One」(324の遺伝子を調べる)の2つのみ。実施施設も限られており、現在、がんゲノム医療中核拠点病院は全国で11施設。医療連携病院は156施設。これ以外での治療は適用されない。また対象は標準治療が終了、若しくはない患者のみ。

価格は56万円から。自己負担額は3割負担で19万円程度。高額医療費制度にて8～10万円程度(所得による)となる。

※2 動画配信について

7月中旬を目処に無料動画配信サイト「YouTube」の日本臨床腫瘍学会公式チャンネルより配信予定。(著作権等の理由により、一部公開できない場合部分的に編集されている場合があります。)YouTubeのトップページで「日本臨床腫瘍学会」で検索ください。

 YouTube^{JP}公式サイト <https://www.youtube.com/>

なお、講座の内容についての議事録等は配布できませんので、ご了承ください。

元気隊 副代表 山内千晶



福岡がん患者団体ネットワーク
がん・バッテン・元気隊

電話 090-9591-7469 (10:00～22:00)

FAX 092-873-2372

HP <http://ganbatten.info>

